

2023年度(令和5年度)学校評価自己評価表

神辺西中学校区	校番 74	福山市立神辺小学校
最終更新日	2023年(令和5年)4月 3日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 1.長期欠席者の減少に向けた取組の推進。 2.学力調査結果を分析して具体的な改善策を確認して成果につなげる。	児童生徒の現状 ・学びの伸びを把握する調査では、現状学年のレベルに達していない児童生徒がいる。また、無答率が高く考えることに向き合えない児童生徒が多い。 ・小中ともに児童生徒が自ら動き、生活をよりよくしようとしている。 ・「体力づくりに取り組んでいる」肯定的解答が87%、新体力テストでは県平均を超えた割合が44%。	育成する力 (21世紀「スキル&倫理観」) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	スキル： ・自己を認識する力 ・自己選択できる力 ・表現力 倫理観： ・粘り強くやり切る力 ・挑戦し続ける力 ・空間認知力 知： 自分の考えを持ち伝え合う子 徳： 人の気持ちがわかり協力できる子 体： 健康でねばり強い子 ・神辺西中学校区でめざす授業の姿を共有(主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の実施) ・児童生徒による生徒指導(生活のきまり)の見直しの継続 ・神辺西中学校区における「21世紀スキル&倫理観」の評価規準による個に応じた指導の実施
--	---	--	---

III 自校

ミッション 伝統を現在に生かし、未来を生き抜く人を育てる。	育成する力 (21世紀「スキル&倫理観」)	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力
学校教育目標 ひとりひとりの命を生かし 育てる教育の実現	めざす子ども像	既習事項と新たな知識・技能を関連付け、思考・判断・表現の場で活用できる知識・技能として定着している。	課題解決のために必要な情報を収集し、比較・分類したり関連付けたりして、筋道立てて考え、表現している。	既有的知識と関連付け、自ら課題を見つけ選択するとともに、学習の仕方や進め方を振り返り、次の学習や生活に生かそうとしている。
現 状 <児童生徒> ・学力調査等において無答率が高いという課題がある。これに対して、「書く\rightarrow考える」授業を続けた。2022年度末には、「考えたことを文や言葉で表し振り返る」と、肯定的回答をした児童は84.5%である。 ・「人のために動くことができた」と自己評価する児童は90%である。学校や人のためになることを話し合う機会の中で、一人ひとりが考えて実行することができている。一方、自分の言動や友だちとの関わりを振り返り、友だちの気持ちを考えるという点に課題が見られる。 <授業> ・「書く\rightarrow考える」授業を一層充実させるため、教師が、教材研究力や「評価力」を高め、児童一人ひとりの学びを見取り伸ばしていく必要がある。 ・児童の学びに向かう姿には、個人差があり、児童の発言に対して柔軟に対応し、学びを繋げていく教師のファシリテーター力を高めていく必要がある。	テーマ 研究 内容等 めざす授業の姿	“対話”と“考えの再構成”を通じた「書く\rightarrow考える」学びの実現 1 「書く\rightarrow考える」学びを軸に置いた授業 ・「対話」と「書く」を通して、自分の考えを再構成する授業を展開する。 ・「思考を動かす問い」によるゆさぶりを行う。 ・「書く\rightarrow考える」手がかりとなるフレームの整理を行う。 ・「何を書き、何を考えるか」を明らかにした教材研究と評価を行う。 2 自己の学び・成長の振り返り(自己認識) ・学習内容の振り返りに加えて、自己の学び方や成長を振り返る場面を、教育活動に位置付ける。 ・1時間の中で、単元の中で、何を振り返るのかを指導者が見通す。 ・「書く」ことを通して自分の考えを整理し、学ぶ楽しさを味わうことのできる授業 ・身に付けた既習事項を活用して、新たな課題を解決することのできる授業 ・友だちとの対話を通して、共に学ぶよさを実感できる授業		

4	“対話”と“ 考えの再構 成”を通し た「書く⇔考 える」学び の実現	★ 継 続	児童が、積極的 に運動に親し み、体力向上が できる。	①本校の体力的課 題の「投運動」を 強化するため に、多様なボー ルを投げる機会 を設ける。また、 「体育ファイ ル」を活用し、自 己の運動能力向 上を見える化す る。 ②外で遊びたくな るような用具を 充実させたり、 遊び方の提案を したりする。ま た外サーキット を設置し、休憩 時間にも運動で きる環境整備を する。	・「運動に取り組 んでいる」児童の割 合を85%以上に する。							
5	児童の教育 環境をデザ インする取 組を推進す る。	継 続	幼保・小・中 の「学びのつな がり」を意識し た連携を図る。	①学力調査から 見える課題を 共有し、小中が 互いの授業の 参観・協議を行 う。 ②授業参観及び 協議を通して、 子どもの学び の姿及び指導・ 保育の具体を 共有する。	・小中合同研修会、 幼保小合同研修 会を年間2回以 上行い、互いの 授業・保育の様 子を1回以上参 観することで、 幼児・児童・生徒 の学びの姿の具 体について協議 する。							

		<p>教職員一人一人の働き方に対する意識の醸成を図る。</p>	<p>①「業務改善アイデア」を定期的に出し合い、協議・実施するとともに、自分／組織の視点で業務改善について振り返る。</p> <p>②超過勤務45時間以内を目指し、各主任を中心に学年間で声かけを行うとともに、入退校時刻表を活用し勤務時間の自己管理を行う。</p>	<p>・職員アンケートにおいて、「子どもたちのために使える時間をつくる工夫をしている」と肯定的評価する職員を80%以上にする。</p>											
--	--	---------------------------------	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。